

あったかいがいいね・・・

# シャローム横浜通信 5月号



2019年(平成31年) 5月号 (第 225号)

## 「2019年度の新入職員について」

新年度を迎え、シャローム横浜にも新しい職員が入職して参りました。そう申しましたも福祉施設の場合、年度の途中に入職して下さる方も多いため、正確には昨年の4月以降に入職された方々のことを新入職員として扱います。今回の入職式に参加された方々は法人全体で44名。その内、シャローム横浜の入職者は例年とほぼ同じ12名になります。

入職日の朝礼の後、その日は1日法人のオリエンテーションが持たれます。そこでアドベンチスト福祉会が持つ福祉の根拠、法人の理念、法人の歴史等を理事長はじめ監事や評議員の方々からレクチャーされることとなります。その意味では当法人の役員の方々はかなり具体的に職員や幾つかの行事に関わって下さっていると言えるでしょう。本当に感謝です。

さて、話をシャローム横浜に戻しますと、昨年12月にEPAの3期生が着任しました。先に来日した女性6名の候補生(1期生3名、2期生3名)もとても良く頑張っておられます。第3期生もきつと頑張っておられると期待しています。今回の受け入れは男性1名だけになります。とても笑顔の素敵な清潔感のある男性です。これでシャローム横浜は7名の候補生をイ

ンドネシアより迎えたことになりました。EPA制度についてはこれまで何度かご紹介しましたのでここでは省略しますが、私がこの制度を見ていて思うことは、候補生の受け入れにとって大切なことの一つは、「受け入れる側の日本人スタッフの理解と協力」です。幸いシャローム横浜においては多くのスタッフがこの制度をよく理解し、何よりも来日した候補生に対してきめ細やかに接してくれています。このことは候補生にとって有難いことだけでなく組織全体にとって意味のあることです。

組織で何か新しいことにチャレンジしようとするとき、そのことに対して肯定的に考えてくれる人とその逆の感情を抱く人が出てくるものですが、シャローム横浜のスタッフはこのEPA制度に対して、そして来日した候補生に対して本当によく理解し接してくれています。このことは最終的にシャローム横浜をご利用される皆さまへの「優しさ」や「笑顔」となって還元されると信じています。

新しい年度が始まりましたが、シャローム横浜をご利用下さるすべての皆さまが笑顔で満たされる施設となるように励みたいと思いますので、「指導のほど宜しくお願い致します。村本英邦

## 今月のギャラリー

### 「若葉自然写真同好会」

「若葉自然写真同好会」は自然写真家として雑誌や講師、またフォトコンテストの審査員として大活躍中の、石井孝親先生主催の写真教室「ネイチャーフォトわかば」のメンバーや、卒業生のうち若葉台近隣に住むシニアで構成された、写真同好会です。



あったかいが  
いいね

第225号  
平成31年4月15日発行  
(毎月1回15日発行)

責任者: 施設長 村本英邦  
〒241-0802  
横浜市旭区上川井町1988  
アドベンチスト福祉会  
シャローム横浜

編集 椎橋・遠藤(裕)・溝口  
☎ 045-922-7333

## お知らせ 平成31年度 入職式

4月1日にアドベンチスト福祉社会の入職式を行いました。シャローム横浜のほか、横浜市ひかりが丘地域ケアプラ・シャローム三育保育園・四季の森小学校放課後キッズクラブなどの新入職員が参加しました。白石理事長や村本常務

理事から法人理念や職員心得などの説明のあと、関連施設を訪問しそれぞれの働きを学びました。「あったかいがいいね」を実践する新しい仲間をよろしくお願いいたします。

相談企画 遠藤 裕之



## デイサービス ボランティア様の紹介

今月はデイサービスに来てくださっている、ドライヤーのボランティアの皆様についてご紹介します。ご利用者様と明るくお話ししながら、入浴後の髪を乾かしてさせていただきます。髪分け目などを聞きながらブローをしてくださり、終わった後にはご利用者様も笑顔で「きれいになったでしょ？」と話してさせていただきます。女性男性問わ

ず、おしゃれを楽しむ素敵なお時間です。

デイサービス課長 椎橋 葉子



## イチロー引退での言葉 「私は外人で孤独」 第133回 チャプレン上前至

先月、米国プロ野球ジャージリーグ所属のイチローが引退会見で発した言葉は身に染みだ。身に染みだしたのは最後の言葉である。「米国に来て外国人になった。外国人になったことで人の心をおもんばかったり、人の痛みを想像したり、今までなかった自分が現れてきました。孤独を感じて苦しんだことは多くありました。しかし、その体験は未来の自分にとって大きな支えになるだろうと思います」と。まさしくその言葉のとおりと思い共感した。私も北米（カナダとアメリカ）で10年間近く住んだ時、同様の気持ち

を経験し、イチローの言葉に納得したのである。米国で私は外国人になった。その時、今までなかった自分が現れてきた。即ち、自分が日本人であるという自覚が強く出てきたのである。日本にいた時はそんな気持ちを持ったことがなかった。そうでなければ自分のアイデンティティーが保てなかったからかもしれない。そして孤独も。今、シャロームにはインドネシアからEPA制度による介護福祉士候補生が7名いる。彼らがどんな気持ちで過ごしているかを想像する。自分が外国人であることと、そして孤独を感じて

いることと。かつての私がそうであったように。しかし、その体験はイチローも言うように「きっと未来において大きな支えになるだろう」ことを信じつつ。今日も彼らの成功を祈りつつ・・・。

民数記15章15節「・・・貴方たちも寄留者も主の前には区別はない。」

